

柳原 上越市の暮らしの魅力を一語でいうと
畔田さん 「自然と笑顔になる」くらい環境がいいことですね。
高木さん 「子育て・教育環境が充実している」こと



家族で収穫した野菜（高木さんご家族）

柳原 地域おこし協力隊の3年の任期後は
畔田さん 目標は農業で生計を立てることですね。担当地域の農業の後継者として、地域を盛り上げたいです。
高木さん 我が家の主役は息子なので、まずは彼が成長する環境を優先したいと思っています。その上で、前職で関わっていた障害福祉や児童福祉は私の人生の中で取り組みたいことの一つなので、現在の地域おこし協力隊としてのミッションを進め

柳原 これからの上越市の地域おこし協力隊に期待することは
畔田さん 私たちのようなイターン者にもとてもいい制度だと思いが、上越市出身の方でUターンして地域おこし協力隊になってくれる人が増えるといいですね。
高木さん 市民の皆さんにも地域おこし協力隊の取り組みを知っていただいて、お子さんやお孫さんに教えていただければUターンや孫ターンのきっかけになるかもしれませんね。

うか。
高木さん 確かにそうですね。私の住んでいる近所の人もとても優しいです。今、息子がイチゴブームなのですが、それを聞きつけた近所の人から自宅で採れたイチゴやジャムにしたものをたくさんいただきました。何よりもその気持ちがうれしいですよ。
畔田さん 私も近所の人の気持ちがとてもうれしいことがあります。最近千葉県との知り合いからたくさん野菜をもらったので、近所の方やお世話になっている農家さんに配ったところ、とっても喜んでくれました。こんな料理作ったよと写真を送ってくれたり、直接お礼を言いに会いに来てくれたり、そんな関係性がとても居心地よく感じています。

です。これはぜひ移住を検討している子育て世帯に推してほしいです。
 柳原 上越市でチャレンジしてみたいことはありますか
畔田さん 今、畑を借りて野菜を作っていますが、将来は売れるような野菜を作ってみたいです。
 また、私は首都圏で生まれ育って、上越市に移住して地域の人と触れ合うと「自分はなんて視野が狭いのだろう」と思います。地域の皆さんは、山手線の駅の位置関係を知っ

ていたり、首都高の出口を知っていたり、自分の地域以外のこともたくさん知っています。私ももっとこの地域のことを知って、早く地域の一員になりたいと思います。
高木さん 子育て環境が充実している一方で、子どもを産む前の若い世代が楽しめる場所が少ないのではと感じます。そういうところが原因で若者が流出しているのであれば、もっといいことをやっている人がたくさんいるとお聞きします。私自身ももっと若者の居場所の選択肢となりうるようなことに取り組んでいきたいと思っています。



地域の人たちと田植えを行う畔田さん(右から1人目)

ながら障害福祉や児童福祉との関わりが持てたらいいなと考えています。
地域おこし協力隊の輪がひろがってほしい



シリーズ 地域おこし協力隊①

～地域の夢の実現をお手伝い～

■問合せ…自治・地域振興課 (☎025-526-5111)

都市部から地方に移住し、自分の夢を叶えながら地域振興に取り組む「地域おこし協力隊」。市内で活動する協力隊をシリーズで紹介します。

第1回目となる本号では、畔田ゆかりさん(柿崎区松留・上中山・猿毛集落担当(左))と高木桂さん(清里区榑池地区担当(中央))の2人に市移住・定住コンシェルジュがインタビューしました。



地域の「一員」となり 行政との橋渡しを

柳原 コンシェルジュ(以下 柳原) 現在の活動内容を教えてください
畔田さん 農業の後継者不足を課題としている柿崎区松留・上中山・猿毛集落で、私自身が後継者になれるよう作業を手伝いながら農業を学んでいます。

将来この地で農業を営んでいくためにも、暮らしに溶け込み、地域の「一員」になることも重要だと考えているため、集落の活動にも積極的に参加しています。

高木さん 現在は(一社)榑池農業振興会と共に、昨年度、地域で策定した「上越市榑池地区指定棚田地域振興計画」に基づく活動に取り組んでいます。活動は農業を中心とした地域振興を軸にしており、清里スマート農業研究会に所属し省力化や担い手確保に向けて取り組んだり、「ビュー京ヶ岳」でカフェの営業をプロデュースしたりと、着任から充実した日々を送っています。

活動を進めながら、行政と地域の橋渡しとなる「農村プロデューサー」になれるよう学んでいます。

柳原 地域おこし協力隊になろうと思ったきっかけは何ですか
畔田さん これまでは与えられた業務をこなす仕事が多く、自分の人生を考えた時に、何かやり遂げたいと思ひ、地域のために貢献する地域おこし協力隊を選びました。

元々農業にも興味があったため、現地見学に訪れたところ、地域の人の熱い思いや人柄に感動し、「この地域で農業をやりたい!」と思い、即決しました。

高木さん 地域おこし協力隊になりたいと思ったことよりも、子育て・教育環境が充実している上越市に移住したいと思ったことが先でした。

地域の「一員」として子育てしていきたいと思っていたため、普通に移住し企業に勤めるとなかなか地域に入り込みにくいと考え、地域の暮らしに早く馴染みやすい地域おこし協力隊を志望しました。

感じる上越の人の「優しさ」

柳原 実際に上越市に移住してみたいかがですか
畔田さん 以前住んでいた千葉県に比べて車のマナーがいいような気がします。人が優しいからなのでしょう。